ようこそ！平成の芝居小屋へ！

弁天座ボランティアスタッフの皆さん

赤岡町の「弁天座」が10周年を迎えました。新聞やテレビなどでも数多く紹介され、今や全国にその名を知られる存在となっています。その弁天座を創立当時から支えて来られたボランティアの方のうち、集まってくださった5人にお話を聞くことができました。

担当　広報編集委員　井上桂子

みんなでつくる「弁天座」

平成19年の「弁天座」完成当時、運営をサポートするためのボランティアが広く公募され、町内外から30人ほどが集まりました。

以来、普段の掃除やイベント時の切符のもぎり、売店の運営などを続けてこられました。今では、20人ほどが活動されているそうです。

ここでは楽しいことばかり

なかでも、「弁天座」の維持・管理は最も大切な仕事になっています。数人のメンバーが週2回訪れ、舞台や客席・階段・トイレなどに掃除機をかけた後、モップで拭き、更に汚れているところは丁寧に雑巾がけをしています。トイレには、自宅の庭で育てた花を持ってくるなど、暑い夏でも花が飾られて、清潔で美しいトイレとして県から表彰も受けました。

こうして瞬く間に10年。かつて、ある皇族の方や総理大臣が訪れた時のことなど、楽しいことばかり思い出としてよみがえり、つらいとか嫌だとか思ったことはないそうです。

それもこれも、子どものころから本物の絵金の絵の迫力に触れ、笑顔と包容力に満ちた地域の人のつながりに魅せられたからだといいます。

ボランティアとしての思い

有名な歌舞伎役者や落語家が上がる舞台と同じ場所で、地域の演芸会などの場として利用できることが「弁天座」の大きな魅力です。

「弁天座」が全国に名前を知られるようになってから、イベントのある時はもちろん、普段の見学にも各地から来てくれるようになりました。著名人だけでなく同級生や旧知の人たちの顔を見つけるとうれしくまた懐かしくなり、反対に、人気のある公演で切符が売り切れてしまいお客さんが入り切れないときや、大雨の中で傘をさして入場を待つ人たちを見ると申し訳なく思うそうです。

弁天座を支え続けて10年。「楽しいから続けられる」と語る5人の顔には、お金に換えられない喜びと時の流れを感じさせない熱い思いが満ち溢れていました。

▶お客さんが笑顔でいられるのもスタッフの皆さんの力です

編集後記

▼夏といえば「スイカ」。夜中になると台所でシャリシャリシャリ。スイカが大好きだった祖母が食べる音でした。スイカを見ると今は亡き祖母を思い出します。（み）

▼夏といえば「花火」。特に手結盆踊りの水中花火はすごく綺麗な花火ですよね。なんとまぁもう20年「仕事」として現地にいるので、いつかただのお客さんとして見に行きたいなぁ、子どもの頃のように。（た）

▼夏といえば「甲子園」。元高校球児の私は、毎年繰り広げられる熱い戦いから目が離せません。うれし涙に悔し涙。思わず感情移入してもらい泣きしてしまうのは秘密です。（り）

▼土佐の夏といえば「よさこい」。3歳でよさこいデビューして、その後何度も参加しましたが、審査員が駆け寄ってきてメダルを首にかけてくれた時の喜びと、給水所の冷たい麦茶のおいしさは今でも忘れられません。（あ）

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi-konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi-konan.lg.jp

マチイロ
スマホで広報を見よう
「i広報紙」はアプリ名称が「マチイロ」になりました。

■編集 香南市広報編集委員会（市役所総務課秘書広報係）〒781-5292 高知県香南市野市町西野2706 Tel.0887-56-0511 ■印刷 川北印刷株式会社